第１９回伯耆の国よなご文化創造計画検討委員会　議事録概要

・日 時　　平成２４年１１月２８日（水）１０時～１２時
・場 所　　米子市役所第２庁舎２階 第２会議室
・出席委員の氏名

福島多暉夫　（委員長）
神庭美喜恵
伊藤　千代
先灘　達也
佐伯　啓子
山根　郷子
狩野　弘幸
丸山　柚美
小原　　顕
田中　秀明
（欠席委員　　遠藤　　彰、国田　俊雄、前田　宣子、高橋　素子）

・説明のために出席した職員氏名

教育委員会事務局	教育総務課	主査兼教育企画室長	岡田　裕二
		主幹	富澤　正徳
		主幹	生田　和義
	生涯学習課	課長補佐兼生涯学習係長	幡井　慎一
	文化課	課長	岡　　雄一
		課長補佐兼文化振興係長	長谷川秀樹
		文化財係長	下高　瑞哉
		主幹	古山　俊彦

・議事日程

開　会　10 ：00

・議　事　（１）伯耆の国よなご文化創造計画後期実施計画（素案）について
（２）その他

閉　会　12:00

福島委員長　本日は、伯耆の国よなご文化創造計画の後期基本計画の素案を皆さんに検討していただく。

田中委員　「よなごの宝の掘り起こし事業」と「文化創造人づくり事業」をひと括りにしてあるが、当初の計画ではこれは柱として分かれていた。当初の基本計画をみると「歴史的文化（よなごの宝）掘り起こし事業」、「文化活動の促進支援事業」、もう一つ「文化創造計画人づくり事業」とある。「文化創造計画人づくり事業」は、内容的に幅広いので、分析する場合に一つの柱としてしっかりと当初計画を分析しないと次に繋がらないと思う。

神庭委員　当初、「文化創造計画人づくり事業」は、米子に住んでいる若い人がこれからも住みたくなるまちにするには、どういう人づくりができるか話されていたと思う。「よなごの宝八十八選」が人づくり事業とイコールにはなっていないと思う。市民は、図書館・美術館が新しくなって、中身がどうなるのか関心があると思う。アンケートの結果を見て、これから図書館がどうなっていけばいいのか、美術館ではどういう展示・催しがあるのか興味を持たれていると思う。

丸山委員　アンケート結果は、40 パーセントぐらいの回答率で、60 パーセントの人は無関心なのか回答がなかった。文化的なことに関して市民は無関心でいると思う。文化を創造する事業に関しても、今すでに成人になった方をこれから掘り起こしていくことは現実的に難しいと思う。一方、アンケートの「文化芸術振興のために、米子市はどのようなことに力を入れるべきか」に対して 40 パーセント強の方が、「学校での文化芸術に触れる機会を充実してほしい」と答えている。子どもたちの文化創造に対する関心を喚起するためには、教育の中に今の計画などを組み込み、例えば「よなごの宝八十八選事業」など教育の中に組み込んでいけば「文化創造人づくり事業」になると思う。

岡田主査　アンケート結果ですが、いつどこで誰に対して何人に行ったのか、説明を付け加えたい。

田中委員　データというのは客観的な感じがするが、例えば 36.1 パーセントは何人のうちの 36.1 パーセントなのか、何を対象としたアンケートなのか明記されたほうが良い。「文化芸術鑑賞や活動で支障となっていることがありますか。」の設問で、「関心のある催し物が少ない」との選択肢は、個人により関心の対象が異なり設問に疑問がある。文化創造計画のためのアンケートではないことを明記してほしい。

福島委員長　アンケート結果で、「文化芸術振興のために、どのようなことに力を入れるべきとか」との設問に、「文化施設での公演、展覧会などの文化事業の充実」は 42.2 パーセントあるが、「文化芸術団体などの育成や支援」は 20.5 パーセントと少ない。しかし、「文化施設での公演、展覧会などの文化事業の充実」と「文化芸術団体などの育成や支援」は切っても切れない関係にある。文化事業を行うのは、文化芸術団体が一番多いことに着目しないといけない。後期基本計画において、「文化芸術人づくりの支援」は大事なところであるが、市民は文化事業の充実といいながら、文化芸術団体などの育成や支援には関心が低い。

関連してアンケートの自由意見では、「文化施設が少なく、あっても質が悪い」、「米子市（山陰）の歴史、ふるさと米子の誇れるものをあげられる人が少ない」とあり、良いものがありながら市民がわかっていないのではと分析されている。しかし、アンケートは実態を表しており、「誇れるものをあげられる人が少ない」ということではなく、「誇れるものがない」というのが現実で、誇れるものをつくっていくことが課題と思う。後期基本計画の中で、５本の指に数えられるような大きなものを掘り出して米子市民に定着させてはどうか。

神庭委員　3 ページの下から 6 行目に、「これらの活動を推進する人材を見つけて育てていく」とあって、急に国際マンガサミットが出てこれを締めくくりにするのは違和感あると思う。

福島委員長　「社会情勢などからみた課題」で、文化創造計画策定後の 5 年間に社会情勢が変化し、市民の文化芸術に関する志向が多様化したとあるが、何がそんなに多様化したのか伺いたい。また、ポップカルチャーは大衆文化なのかお聞きしたい。最後の段落の締めくくりには違和感を感じる。

狩野委員　「社会情勢から見た課題」の最初の段落は、平成 19 年から現在までこの計画の策定について、2 番目の段落は文化創造計画の流れについて、最後の段落は最近の話で、これを私たちは課題として分析・定義していくのか議論しないといけない。

平成 19 年に文化創造計画を策定してから、米子を取り巻く環境はどんな現状かをまず整理しないといけない。この 3 年の間に、文化だけでなく色々な分野で中海圏域を取りまく５市が連携してきたなかで、一番埋没しているのはどこかをまず考えないといけない。福島委員長がおっしゃったように、境港市は何があるか、松江市、出雲市、隣の安来市はそれらを追いかけていま何をしようとしているのか。これについて、私たちは、後期基本計画がどこに向かい、また変えていかないといけないところを審議すべきと思う。

今申したように、境港市は何があるかといえば、鬼太郎です。去年、松江市では松

江城周辺でにぎわった。出雲市は出雲大社がある。ところが米子市はなにがあるのか。ここでは、文化芸術として挙げられていたもの意外に、国際マンガサミットなど新しいものを受け入れる土壌があることを打ち立てても良いのではないかと思う。今後、後期基本計画の策定にあたり、この文言で十分と思う。山陰で一番埋没している米子市を復活させるにはどうしたらよいか、そのためには文化的にどうするのかが一つの目標になるのではないか。それを後期基本計画のなかで打ち立ててはどうか。

岡田主査　ポップカルチャーについては、いろいろなご意見をお持ちのことですので、いただいたご意見はこれからの修正に参考にさせていただきたいと考える。

福島委員長　ポップカルチャーの定義はどうか。

岡課長　文化的なもので主流になっているもの、例えばクラシック音楽、書物、絵画そういったものの他に、大衆芸術とか大衆芸能をイメージしていただければよいと思う。例えば、国際マンガサミット・まんが博の動きがあった。伝統的なものではないが、生活や文化・教養にも関与している。文化の定義も幅広く曖昧なところはあるが、映像文化とかアニメ、マンガなどを媒体とした、それらを総称するのがポップカルチャーと捉えていただければご理解いただきやすいと思う。

狩野委員　ポップカルチャーの定義に、あまりこだわらなくても良いのではないか。今の時代、マンガは社会的にも容認されており、ポップカルチャーはキーワードと捉えればよいと思う。

福島委員長　検討委員会としては、ポップカルチャーの位置づけを認識しておかないといけない。大衆文化なのかと伺ったところ、そのとおりとのことであった。ポップカルチャーが後期基本計画の骨子になるのかは別の問題として、現在そういった方向性があるのは皆さん認識されていると思う。これも育てていかないといけないとは思うし、主流の文化芸術を発展育てていくのも非常に大事なことと思う。

神庭委員　８ページ３行目の個性あふれる「ユルい」文化の、「ユルい」というのは避けたほうが良いと思う。何がどうゆうふうに「ユルい」のか表現が曖昧で理解しにくいので、「個性あふれる文化にも目を向けていくことが重要となります。」としてはどうか。

　主な取組のところで、当初、図書館・美術館と道路を渡って山陰歴史館にうまく流れていくような催しなどできないか話し合われていた。それぞれが別々に活動していくのではなく、取組ポイントのところに図書館・美術館から山陰歴史館へという仕組みも入れていただきたい。

その次の「伯耆古代の丘整備」と「淀江地区の歴史・文化資産の紹介」を続けたほうが強調してわかりやすいと思う。

田中委員　「伯耆古代の丘整備」と「淀江地区の歴史・文化資産の紹介」は、実施する基本施策の該当する項目が違うので続けるとおかしくなると思う。実施する基本施策に基づいた体系図を作っていかないといけない。そうしないと、後期基本計画は進んでいかないので、それぞれの取組の位置づけをきちんとしてほしい。

福島委員長　分かりにくい書き方になっているので、例えば「文化・芸術拠点施設の整備と活用」に大きい１を打ってもらう。これは実施する基本施策の（１）と同じこと。「伯耆古代の丘整備」の上に、大きい２を打ってもらう。後は、「情報ネットワークの構築」に３を打ってもらう。「市民文化活動の支援」のところに、大きい４を打ってもらう。

それで、一番最後に「淀江地区の歴史・文化資産の紹介」が出てきているが、これは（２）歴史的文化の保護と活用に入れたほうが良いのではないか。具体的には「米子城跡の整備」の後に持ってきたらどうか。

田中委員　米子城跡の整備ですが、米子城跡を城山の周辺だけでなく米子城下町というふうな捉え方ができるのではないか。

岡課長　整備というと、城山は米子城の中心部になるが、捉え方や見せ方は城下町ということになる。

田中委員　例えば、今は道路だが堀の跡が残っているとか、その辺の視点をもう少し強調していくことができないものか。城下町としての米子の特色としていろんな町があり、ここには何があったとか結構わかっているので、米子市でも整理したらどうか。

「よなごの宝八十八選」だが、冊子に挙がっているのはごく一部の分野で、選定に際して、いつでも目に触れることができるもの、誰でも見れるようなものを基本に選定したが、それ以外にも宝は米子市内にたくさんある。そういうものを再度拾っていく事業、それを冊子にするかどうかは別にしても、そういうことをやっていく必要があるのではないか。今できたものに限定して宝を活用したりするのではなく、市民の中から地域での掘り起しを考えれば、別の視点での、対象物を変えていった掘り起しができないかと思う。そういうことを含めた計画をお願いしたい。

福島委員長　一つは、「ユルい」について、次に「文化･芸術拠点の整備と活用」のところで、前から出ていた三館一体での利用を付け加えてもらいたい。今あった「市民の文化活動の支援」では、八十八選にシフトしすぎる気がする。伯耆の国よなご文化創造

計画の中で八十八選ができたのは、一つの業務としてこれで良い。しかし、これからは多くの分野にむけ、もう少し視点を大きくした方がいいのではないか。実施する基本施策の「よなごらしい文化活動の創造」を読むとわかるように、米子のまちづくりを推進するため、文化団体、市民団体の自主活動、そして活発に交流、連携して活動していくための環境づくりをしないといけないが、主な取組の「市民の文化活動の支援」にはそれがない。私は、八十八選についてはこれまでに無いものを作ったのは良いと思う。米子の文化団体、例えば米子市文化協議会の 70 団体は、何十年と米子の文化を支えてきてそれぞれやっている。このところにも着目し、更に発展していくことで米子の文化活動が質的に向上すると思う。

文化団体の一つとして、発表する場、発表することで市民が来て交流し、市民もよりよい文化を共有する。発表する場というのが、公会堂のホールであり、文化ホールであり、美術展では美術館であり、図書館でもいろいろなことをされる。ここは充実しなければならない。ところが、発表するまでの活動拠点、研修したりする場所がない。ここは、総合研修センターとして、文化団体は拠点として活動してきたが、市役所が狭隘とのことで第２庁舎になった。そうすると、文化活動、練習、研修、会議の場所が無くなった。美術関係にしろ、ホールの関係にしろ、生活文化の関係そういった団体が利用しやすいように場所の提供をしていくのも大切なことと思う。

「市民の文化活動の支援」の取組ポイントに、文化芸術団体の発展のため、後期基本計画として支援していくことを付け加えてもらいたい。

岡田主査　参考にさせていただいて、盛れるものは盛ってきて、次の会では皆さんに見ていただきたい。

岡課長　「ユルい」は取りたいと思う。先ほどいただいたご意見は盛り込めるものだと思う。例えば施設の一体とか、文化活動の支援に関してもいろいろご意見いただいたことは、基本的に盛り込めることだと思うので、表現を変えさせていただいて整理したい。

福島委員長　米子城跡を米子城下町としての拠点となるというようなことを入れてもらいたい。二の丸がテニスコートになったり、三の丸が野球場になったりしているので、それを復元していくことが大切と思う。

岡課長　項目としてハード整備的な米子城跡の整備というものにしていたので、ハードの部分しか見えないところがあったが、タイトルも含めて意見を出してもらって、もう少しソフト的な要素を盛り込んでいきたい。

岡田主査　高橋委員の意見について、Ⅲ章「これからの取組」の部分に関する意見を紹介したい。高橋委員はポップカルチャーについては否定的な意見をお持ちでした。個人的な趣味ということで個人がやる気があればどんどんやられるでしょうということで、計画に盛り込むとか、市の支援とかそういったことには不向きではないかとの意見でした。

福島委員長　文化は継続性で発展していかないといけない。去年から急にマンガといわれており、芽を育てることは大切ですが、後期基本計画の中での表現について検討をお願いしたいと思う。

7ページの下から7行目に「これらの施設の整備を推進して」とあるが、施設の整備は前期で推進しているのでは。

岡課長　まだ完成していないということで、中身も含めて推進を使っているが、概ね前期の中で解決している問題である。

福島委員長　この辺は文言を整理してほしい。例えば、「市民のニーズを十分に満たしていない状況も生じており、前期計画で美術館・図書館の整備に着手、さらに、公会堂、歴史館などの整備をさらに推進していく。」というような書き方にしたら良いのでは。これを読むと、これからやらないといけないとの表現になっている。実際、大きいところは前期計画で着手しているので、これからはソフト面になるのでは。

岡課長　先ほどのポップカルチャーについての高橋委員のご意見で、あまりそれは盛り込みたくないとありましたが、事務局としては、まちづくりの視点から、ある程度意識していかないといけないと考えています。もちろん、それを中心にということではないが、一つ問題意識というか「米子らしさ」ということで記述していきたいと思っているが、表現はどうするのか検討してみる。

福島委員長　後期はいろんな施設も整備できるので、もう少しマクロ的な見方での計画にしてほしいと思う。新しい芽をもちろん伸ばしていくのは必要です。そのへんを踏まえた表現としてほしい。

田中委員　米子市は来年度以降、マンガ王国に呼応した大きな目玉の事業が続くのか。

岡課長　大きなものはおそらく無いと思う。

田中委員　これは二重に強調されているので、「県が提唱する「まんが王国とっとり」の取

組に呼応し」を削除してはどうか。

岡課長　まんが王国は、これで終わりでないと県は言っているが、確かにそこまでいう必要は無いかもしれない。

田中委員　市の計画として、何かマンガを目玉に打ち上げていくなら別だと思う。

狩野委員　遠藤委員がやっておられる、喜八プロジェクト、ダラズクリエイトボックスなどを中心として、年何回か行う活動も多くなっている。それと、中海テレビ放送センタービルでのデジタルハリウッドスタジオ米子など、次のポップカルチャーを育成しようというものができつつある。

課題で申し上げたが、米子では文化団体がいろんなことをやってこられ、当然のことながら継続してやっていくもので、新たに出てきた新しい芽についても、並行してやっていってもいいような気がする。後期基本計画では、今までと同じことをやるのかⅡ章「現状と課題」のところで皆さんに申し上げた。前期はハードを作るのが目玉だったが、後期基本計画では何を目玉にするのか。後期基本計画のこれが目玉だというのがあるか、良くわからない。

後期基本計画の中では、若いクリエーターに対しての支援も一つの目玉ではないのか。後期基本計画の中で前期に引き続いてという流れになりつつあるがそれでいいのか気になる。

神庭委員　まんが王国の催しがあったのですが、他にも絵本ワールドとか若い写真家とか絵画、そういったものに長けている方たちもいらっしゃる。ある面も大事だが、いろいろある文化の一つだと思うので、米子市の文化創造計画の中に大きく取り上げていく様なイメージを持つ括りはどうかと思う。

ほかにいろんな文化活動をしている人がいるので、いろんな活動を応援しつつ、後期基本計画はこれから新しくできる図書館・美術館の内容を充実していくということで、なにも急にポップカルチャーを出さなくてもよいと思う。

福島委員長　「よなごの宝八十八選」ができたが、アンケート結果では、問いかけたときに市民が答えられないのが実態として挙がっておりお、後期は市民だれでも５本の指が折れるようなものを文化創造計画としても出していくべき。そのために、これから米子でポップカルチャーが発展して後期７年の間にポップカルチャーやマンガが５本の指に出てくれば大きな目玉になるのでしょうが、市民に米子はこれだというものを知ってもらいたい。図書館関係ではどうか。

伊藤委員　個人的な意見を言わせていただくと、「ユルい」文化に対しては触れたくないという気持ちを持っている。図書館･美術館を見るとそこの文化がわかるといわれるので、質の高いものを作っていく方向にいけたらいいと思う。ポップカルチャーやマンガはごく一部のものだと思うので、米子市の文化創造計画の中に入れる必要はないと思う。

先灘委員　概ねこういう方向性で取組んでいただければと思うが、文化と観光の一体化をもう少し図る方向性が必要と思う。どこの自治体でも、また鳥取県もそうだが、文化と観光との一体化を図っていく中で文化の振興なり色々なものが図れると思う。

田中委員から体系図とありましたので、その中で文化と観光面をもう少しクローズアップして、文化と観光が一体化になり文化振興を図るという計画にしていただければと思う。

狩野委員　観光とかはどういう風なものがあるのか。

岡課長　観光はメインには出ていないので、観光振興という表現はしていないが、観光・産業振興も含め、まちづくりという切り口で大きくくくってはどうかと今回提案している。観光だという側面で捉えると、ものすごく観光にシフトしていき、下町観光だとかの話になる。例えば、文化ホールで何かイベントがあっても、観光の要素があったり、美術館であったり広く捉えればいろいろ関わってこられる。それはどこに通じていくかというと、やっぱりまちづくりというところかと思う。分野別に捉えていくよりも、むしろそれらもひっくるめた文化的まちづくりが切り口かと思う。

福島委員長　文化と観光は切り離せないと思うし、文化のないまちには観光客が来ない。文化創造計画の情報ネットワークについて、当初からどんなネットワークにするのか問題視されてきた。ホームページがそれぞれの施設にできたり、収集している物の映像化ができ、次にはどういったネットワークを構築するかとなっているので、意見を出してほしい。ホームページは、図書館であり美術館であり歴史館といった施設には作っておかなければならないものと思うが、情報ネットワークを市民がどう利用できるのかが大切と思う。取組のポイントとして、情報ネットワークについてニーズの把握やシステムの設計とパーツ等をどうしていくのか、これから策定にかかると思う。また、運用方法の検討にもこれからかかると思うので、事務局としても検討していただきたい。Ⅳ章「むすび」についてはどうするのか。

岡田主査　Ⅳ章「むすび」は、これからの取組の実施にあたっての総まとめで、ポップカルチャーも含めて色々なエキスを入れているが、実際的なところはそれぞれの施策、事業ごとに具体的な実施方法を皆さんと検討しながら進める姿勢を示した。

福島委員長　色々な意見が出たので、それらを加味してもらい、次の検討委員会に提案してもらいたい。